



最上位目標・価値基準

命を大切にすること、人権を守ること

学校ビジョン キーワードは「実感」



全者がウェルビーイングを実感

子供・職員・保護者・地域が幸福を実感できる学校



子供たちが楽しさを実感

「わかる・できる・えらぶ・つたえあう」ことの喜び



職員が自らの変容を実感

対話と協働をとおして心が動く経験と自己成長

学校教育目標

やり方がわかる！ 自分で考え選ぶ！ やってみる！

～ 子供が主語となる学びの合言葉 ～

学校教育目標と育みたい力との関連

学校教育目標	3つの資質・能力	育てたい5つの力※
やり方がわかる！	知識・技能	④はたらく力
自分で考え選ぶ！	思考力・判断力・表現力	⑤選択・決定する力 ③社会環境への適応力
やってみる！	学びに向かう力・人間性等	③コミュニケーション能力 ①人間関係をつくる力

※育てたい5つの力：①人間関係をつくる力 ②コミュニケーション能力
③社会環境への適応力 ④はたらく力 ⑤選択・決定する力

教育・経営の重点



「自己決定」を核とした 授業づくりと客観的評価

- 「自己決定」を核とした授業づくり
- 意図的な「選ぶ」場面の指導案明記
- 微細な表情の変化を捉える客観的評価
- Google Workspaceを活用した学習DX



「チーム伏見」の組織運営と 風土改善

- 12年間を見通した切れ目ない学部連携
- 心理的安全性の確保と風土改善の推進
- 専門家として「指摘しあえる職場」
- ワールドカフェ等のフラットな対話機会



実効性のある「働き方改革」と ウェルビーイングの向上

- 業務プロセス（会議・記録）の精選
- 見える化による業務分担の平準化
- 時間外上限(月45h/年360h)の厳守
- 長期休業中の在宅勤務の推進



地域と歩む「開かれた 学校づくり」

- 地域資源を教育課程へ統合する熟議
- 地域とのWin-Winな互惠関係の構築
- note/HP等を用いた戦略的広報活動
- 学校運営協議会(CS)の機能強化

1 校 訓 「夢」 「協働」 「感謝」 「笑顔」

2 学校ビジョン

- 子供、職員、保護者、関係する全ての人々がウェルビーイングを実感できる学校
- 児童生徒が「わかる・できる・えらぶ・つたえあう」ことの楽しさを実感できる学校
- 職員が多様な人々との対話や協働をとおして心が動く経験や自身の変容を実感できる学校

3 学校教育目標 「やり方がわかる！ 自分で考え選ぶ！ やってみる！」（合言葉に）

4 教育・経営の方針

(1) 全般

- ・ 本校の最上位目標を「命を大切にすること、人権を守ること」とし価値基準に設定
- ・ 学校ビジョンを具現化・視覚化するための学校経営計画を策定
- ・ 育てたい5つの力*を踏まえ学部間の連続性がある（12カ年を見通した）教育課程の編成
（*①人間関係をつくる力 ②コミュニケーション能力 ③社会環境への適応力 ④はたらく力 ⑤選択・決定する力）

(2) 学習指導

- ・ 学校教育目標を反映した授業改善の推進
- ・ ICT機器等を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ・ 自立活動や道徳教育、総合的な学習（探究）の時間の充実
- ・ 「学びの履歴シート」の全校活用

(3) 生徒指導・進路指導

- ・ 学校教育目標を意識した発達支持的生徒指導の推進
- ・ いじめ防止及び不登校解消に係る対応策の見直し・改善及び児童生徒・保護者への周知
- ・ 報告・連絡・相談の徹底と関係機関との連携強化
- ・ 自己選択・自己決定の資質・能力を高めるための進路指導の在り方を検討

(4) 安全・安心

- ・ 学校保健安全計画による組織的対応と食育を含む健康安全教育の推進
- ・ 実践的な避難（防災）訓練の実施と子供の重大事故を想定した職員向け訓練の実施
- ・ スクールバスの安全かつ円滑な運行
- ・ 学齢に応じた「自分の命は自分で守る」安全教育の推進

(5) 家庭や地域との連携

- ・ 学齢に応じた地域資源を活用した学習の在り方に関する検討
- ・ 教員の参加による学校運営協議会による熟議
- ・ 本校の教育を知ってもらうための発信方法の工夫
- ・ 家庭や地域から信頼され続けるための言動と服務規律の保持、個人情報管理徹底

(6) 研究・研修

- ・ 授業に直結する校内研究の推進（授業改善）
- ・ 日常の指導について、同僚に相談したり専門家より助言を受けたりする取り組み
- ・ 所属学部以外の授業参観（＝小中高のつながり）
- ・ 道立特別支援教育センターと連携した研修活動（理論と実践の往還）の推進

(7) 組織運営、働き方改革

- ・ 速やかな報告・連絡・相談の徹底
- ・ ハラスメントのない職場、コミュニケーションが豊かな職場、指摘しあえる職場
- ・ 時間外在校等時間を1か月45時間以内、1年間で360時間以内を厳守
- ・ 副校長・教頭・事務長の勤務時間の縮減

(8) その他

- ・ 教員確保のための「草の根教育実習」及び「高校生の小・中学校等におけるインターンシップ」に係る協力の在り方を検討

5 教育・経営の重点

(1) 「自己決定」を核とした授業づくりと客観的評価

- 「わかる・できる・えらぶ・つたえる」の徹底
- 一時間ごとの授業において、子供が「選ぶ」場面を意図的に設定（指導案に明記）
- 言葉のない子供においては視線や表情の変化を「意思」として評価
- Google Workspace 等を活用した学習 DX 化の在り方を検討

(2) 「チーム伏見」としての組織運営と風土改善

- 学部間の情報（児童生徒の教育活動）共有の促進強化（チャットや掲示板の活用）
- 意図的な交流機会の創出（ワールドカフェなど）
- 心理的安全性の確保と4つの意識（目的、当事者、他者、協働）の実践
- 新学習指導要領審議経過や本校在籍12年間を見通した教育課程の検討（R9実施）

(3) 実効性のある「働き方改革」とウェルビーイングの向上

- 業務プロセスの精選（会議時間の厳守、計画案や記録の簡略化、空き時間の創出等）
- 管理職の負担軽減（最終退勤者による施錠ルール徹底、業務内容の見える化等）
- 業務分担の平準化（各職員の業務内容の見える化）の進め方を検討
- 長期休業期間中における在宅勤務の推進

(4) 地域と歩む開かれた学校づくり

- 地域連携の深化（連携先のメリットを一層重視 ⇒ win-win の関係構築）
- 児童生徒が地域で活動（貢献）できる機会の拡充
- 情報発信の工夫（報道機関への取材依頼、学校HP、note、町内会回覧板等）
- 学校運営協議会（CS）の機能強化（地域資源を教育課程に組み込むための熟議）